

平成28度
岡山県学力・学習状況調査

調査問題を活用した授業改善のポイント



岡山県教育庁義務教育課

国語



①



授業改善のポイント

言語活動を支える「言葉の力」が確実に身に付き、使える力になっていますか？

改善のポイント

- ① 個別の知識・技能と思考力・判断力・表現力をつなぐ

目的や意図に応じ、効果的に書く力を身に付けさせる授業になっていますか？

改善のポイント

- ② 付けたい力を明確に（指導の系統性も意識して）

②



問題

1

単に漢字を読み書きするだけでなく、文章表現の中で、適切な漢字を正しく使うことができるかどうかをみる問題。

1

次の問いに答えなさい。

新形式
!!

- ① 次は、岡山県出身の作家である内田百閒が『早のー部』です。文章中のー部①から④について、①、②の漢字はひらがなで、③、④のカタカナは漢字で書きなさい。①②③④

私が生まれて育った備前岡山は、だいたい温暖な気候のい所とされているが、しかし夏と冬はしのぎにくい。夏は備前の夕風、備前に限らない、瀬戸内海エンガンの地方はどこでも同じのようであるが、日中油照りに照りつけられて、むしむし蒸された一日がようやくくれ、夕方になると、途端に風がぱたりとなくなってしまう。(内田百閒「麗らかや」より)

- ② 次の①、②の文のー部の漢字の読み方を、ひらがなで書きなさい。⑤⑥

- ① メールを受信する。
② 話し合いを重ねる。

- ③ 次の①、②の文のー部のカタカナを、漢字で書きなさい。⑦⑧

- ① セカイ遺産に登録される。
② 太陽の光をアびる。

従来の
出題形式

③



問題 2

作成した「レポート」において、構成を考えて文を書きなおすことや、主語と述語の関係、ことわざや慣用句の理解など、文法・語句に関する知識をみる問題。

2

藤田さんは、岡山県の後楽園周辺にある文学碑（石に短歌などを刻みつけたもの）について調べてレポートにまとめました。次は、その一部です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【後楽園の文学碑】

後楽園は岡山市にある庭園で、日本三名園の一つです。昔から後楽園を訪れる文学者は多く、周辺には文学碑が設置されています。① 私は以前から、これらの文学碑が気になっていたので、後楽園を題材にして、どんな人が、どんな作品を作ったのかを調べることにしました。調べた中で私が注目したのは次の作品です。

「春寒き梅の疎林を行く鶴の高く歩みて枝をくぐらず」

これは、歌人の中村憲吉が後楽園を訪れたときに、梅林を歩くタンチョウヅルの姿を詠んだ短歌です。② 園内を野生の鶴が自由に歩き回る。この時代には、そんな風景がよく見られたのです。首をすつと伸ばした姿勢で歩いている鶴の姿が目につかびます。



(↑ 後楽園)



↑ 中村憲吉の文学碑)

言語活動を下支えする
「言葉の力」の確実な定着

知っているだけの知識



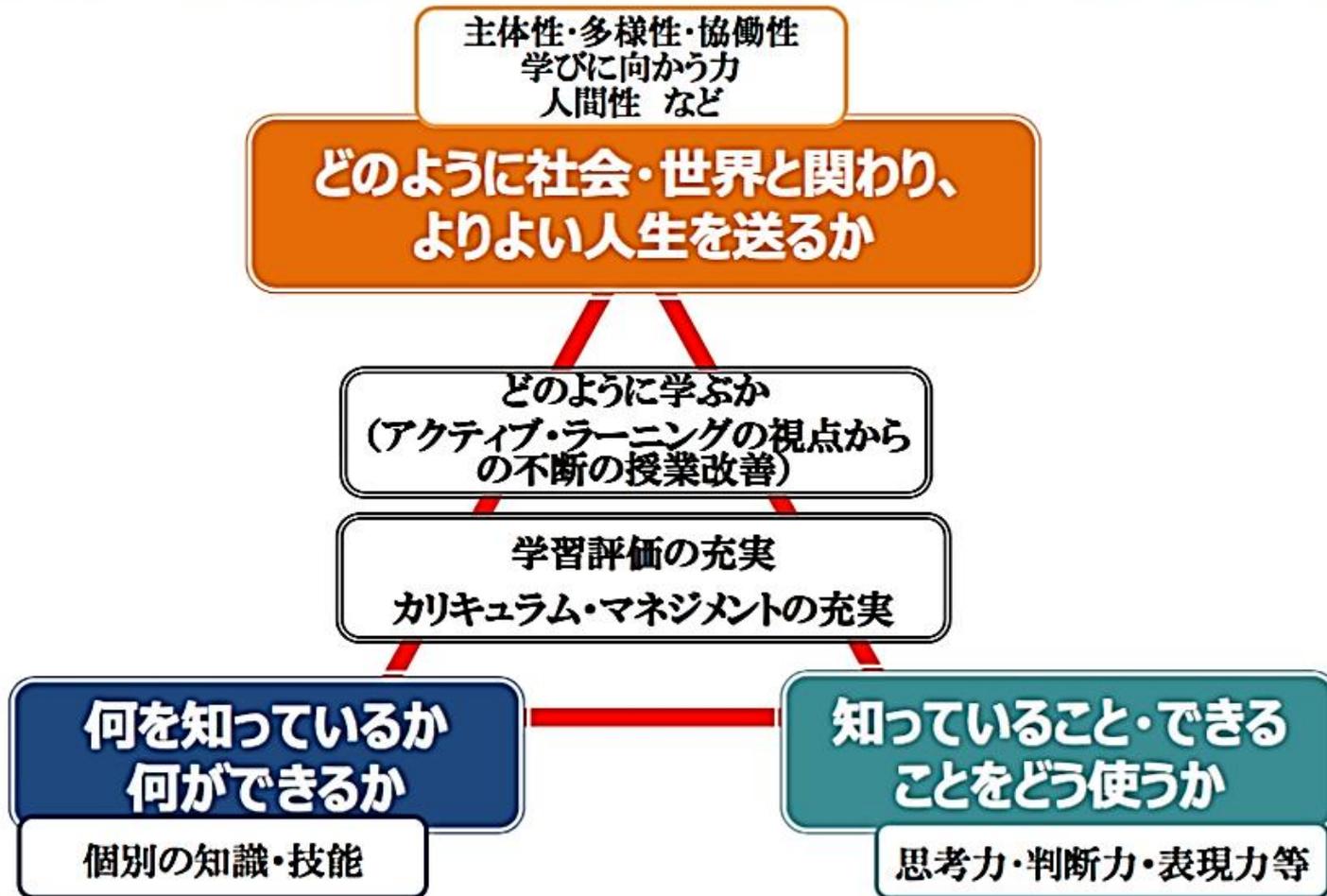
使える知識

4



ポイント① 個別の知識・技能と思考力・判断力・表現力をつなぐ

育成すべき資質・能力の三つの柱を踏まえた日本版カリキュラム・デザインのための概念



「三つの力」を有機的につなげる授業づくりが必要

5



問題 3

保健委員会が作成する「保健だより」の編集会議での話し合いの結果を受け、目的や意図に応じて文章全体の構成の効果を考えたり、資料を活用して書き直したりすること、さらに改善するための話し合いの進め方や、条件に沿ってまとめを書いたりすることができるかどうかをみる問題。

平成28年度
岡山県学力・学習状況調査

中学校 第1学年
国語

実施時間：45分

「始めなさい」の指示があるまで、この問題用紙は開かず、下の開封の受け方を読んでおきなさい。

開封の受け方

1. 答えはすべて解答用紙に書きなさい。
2. 調査を始める前に、この問題用紙には、組、番号を、解答用紙には、学校名、組、番号、性別、小学校コードを書きなさい。
3. 印刷ではつきりしないところがあるときは、だまってお手をおきなさい。
4. 筆記用具以外は、机の上に乗らないようにしなさい。

1年

岡山県教育委員会

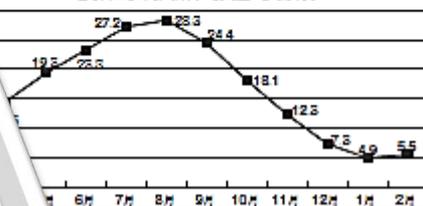
※問題用紙を別冊で複製(コピー)して行うことを禁じます。

【資料A】けがの種類と発生場所

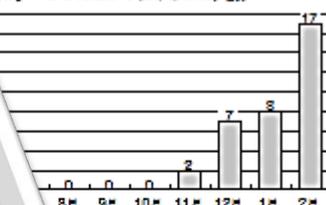
打撲	骨折	ねんざ	捻挫	その他
39.5%	29.1%	28.3%	1.2%	4.9%

教室	体育館	廊下・階段	校庭	プール	その他
12.9%	30.1%	7.4%	44.2%	0.8%	4.7%

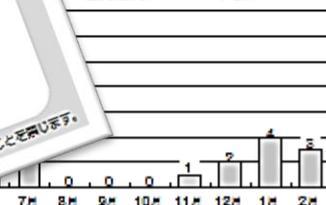
【資料B】岡山県平均気温(気象庁)



【資料C】インフルエンザにかかった人数



インフルエンザにかかった人数



保健だより 3月号

平成28年3月2日

4月からは新しい生徒が始まりますが、そのときに重要となるのが、自分の「健康」です。今年では、来年夏の健康診断の参考にしてもらうために、今年度1年間の保健室の利用状況についてまとめました。

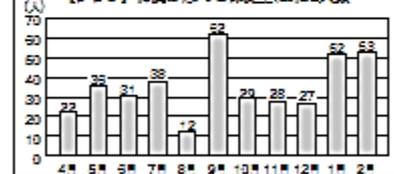
1年間のまとめ

最初に1学期は、5月から7月にかけて、保健室を利用した人が多くなりました。これは、この時期にウイルス性の胃腸炎が流行したためです。

次に2学期は、9月に休養をくずした人が多かったです。これは、夏休み明けでよい生活のリズムを取りもどせなかったことや、授業が終ったことが主な原因だと考えられます。

最後に、3学期は1月と2月に保健室を利用する人が多くなりました。

【グラフ】休養が悪くて保健室に来た人数



(ア)

(イ)

第一中学校 保健委員会

3

保健委員会では、三月に発行する「保健だより」の記事を書くために、「資料A」から「資料D」を集めて、左のような「下書き」を書きました。また、5ページの「話し合いの様子①」と「話し合いの様子②」は、「資料A」から「資料D」と「下書き」をもとに、記事をどのような内容にするかを話し合っている様子です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【下書き】

6



問題 3

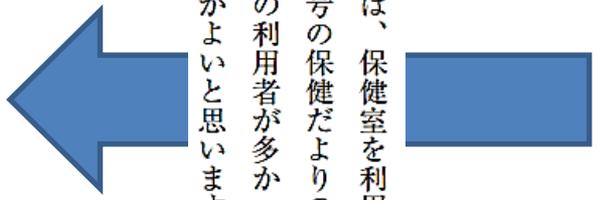
保健委員会が作成する「保健だより」の編集会議での話し合いの結果を受け、目的や意図に応じて文章全体の構成の効果を考えたり、資料を活用して書き直したりすること、さらに改善するための話し合いの進め方や、条件に沿ってまとめを書いたりすることができるかどうかをみる問題。

(2) 谷原さんは、【下書き】の中の……部を書き直すときに、【話し合いの様子①】で出された意見に加えて、資料を見てさらに気づいたことも入れて、左の□□のように書き直ししました。次の□□にあてはまる言葉を、十字以上、二十字以内で書きなさい。

また、その際に根拠こんきょとなる資料を【資料A】から【資料D】までの中から一つ選んで、その記号を書きなさい。

最後に、三学期は一月と二月に保健室を利用する人が多くいました。その原因は、寒くなってかぜが流行したことが挙げられます。また、一月は冬休み明けで、生活のリズムが乱れたことも一因です。さらに二月には、□□ことが保健室を利用した人が多かった理由の一つです。

西野にし「一、二学期については、保健室を利用した理由が具体的に書かれています。今号の保健だよりの目的は□□①です。だから、保健室の利用者が多かった理由を、三学期のところにも加えた方がよいと思います。」



話し合いの結果を受けて、より良い表現に書き直し

最後に、三学期は一月と二月に保健室を利用する人が多くいました。

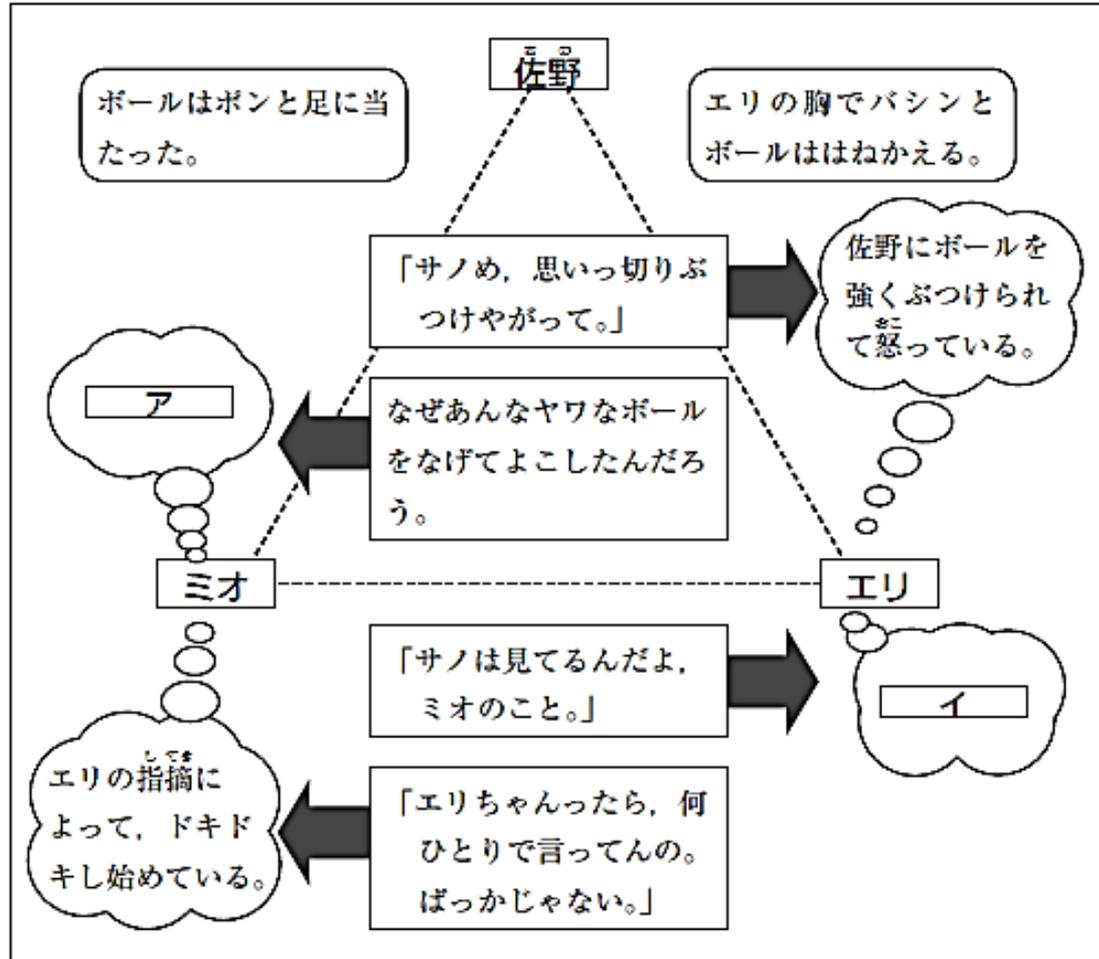
7



問題 4

物語文を読み取り、登場人物の関係や心情について、表現方法等を通じて正しく理解することや、文章を読んで捉えた作品のよさについて、自分の言葉でまとめることができるかどうかをみる問題。

登場人物の関係や心情を図にまとめる



(4) 山崎さんは、この文章に登場する人物の関係を、図でまとめることにしました。次の図の「ア」・「イ」にあてはまる言葉として最も適切なものを、下の1から5までのの中から一つずつ選んで、その番号を書きなさい。



「書くこと」の能力を育てるための指導事項

- ア 「課題設定や取材」に関する指導事項
- イ 「構成」に関する指導事項
- ウ 「記述」に関する指導事項
- エ 「推敲」に関する指導事項
- オ 「交流」に関する指導事項



「書くこと」の能力を育てるための指導事項

ア 「課題設定や取材」に関する指導事項

低学年

経験や想像したことなどから書くことを決める。
書こうとする題材に必要な事柄を集める。

中学年

関心のあることなどから書くことを決める。
相手や目的に応じて、必要な事柄を調べる。

高学年

考えたことなどから書くことを決める。
目的や意図に応じて事柄を収集し、全体を見通して整理する。

10



ポイント② 付けたい力を明確に(指導の系統性も意識して)

「書くこと」の能力を育てるための指導事項

イ 「構成」に関する指導事項

低学年

じぶんの考えが明確になるようにする。
事柄の順序に沿って簡単な構成を考える。

中学年

文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるようにする。
段落相互の関係などに注意して文章を構成する

高学年

自分の考えを明確に表現するために、文章全体の構成の効果を考える。

11



ポイント② 付けたい力を明確に(指導の系統性も意識して)

「書くこと」の能力を育てるための指導事項

ウ 「記述」に関する指導事項

低学年

語と語、文と文の続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書く。

中学年

書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書く。

文章の敬体と常体の違いに注意して書く。

高学年

事実と感想、意見などとを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりする。

引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書く。

12



ポイント② 付けたい力を明確に(指導の系統性も意識して)

「書くこと」の能力を育てるための指導事項

エ 「推敲」に関する指導事項

低学年

文章を読み返す習慣を付ける。
間違いなどに気付き、正す。

中学年

文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりする。

高学年

表現の効果などについて確かめたり、工夫したりする。

13



ポイント② 付けたい力を明確に(指導の系統性も意識して)

「書くこと」の能力を育てるための指導事項

オ 「交流」に関する指導事項

低学年

書いたものを読み合い、よいところを見つけて、感想を伝え合う。

中学年

書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を述べ合う。

高学年

書いたものを発表し合い、表現の仕方に着目して助言し合う。



「書くこと」の能力を育てるための指導事項

- ア 「課題設定や取材」に関する指導事項
- イ 「構成」に関する指導事項
- ウ 「記述」に関する指導事項
- エ 「推敲」に関する指導事項
- オ 「交流」に関する指導事項

日々の授業の中で...

学習指導のスタンダード「授業5(ファイブ)」
②自分で考え、表現する時間を確保する
⑤授業の振り返りをする





最後に... これからの「教育観」について

- ◆ 子どもたちが成人して社会で活躍する頃には、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会や職業の在り方そのものも大きく変化することが想定されます。
- ◆ そうした厳しい挑戦の時代を乗り越え、伝統や文化に立脚し、高い志や意欲を持つ自立した人間として、他者と協働しながら価値の創造に挑み、未来を切り開いていく力が必要です。

そのためには...

- 教育の在り方も一層進化させる必要があります。
- 特に、学ぶことと社会とのつながりを意識し、「何を教えるか」という知識の質・量の改善に加え、「どのように学ぶか」という、学びの質や深まりを重視することが必要。また、学びの成果として「**どのような力が身に付いたか**」という視点が重要になります。